

037

生徒主体の 防災教育と地域交流を結びつける 取組の実施

取組主体

能登町立小木中学校

従業員数

想定災害

実施地域

17人

全般

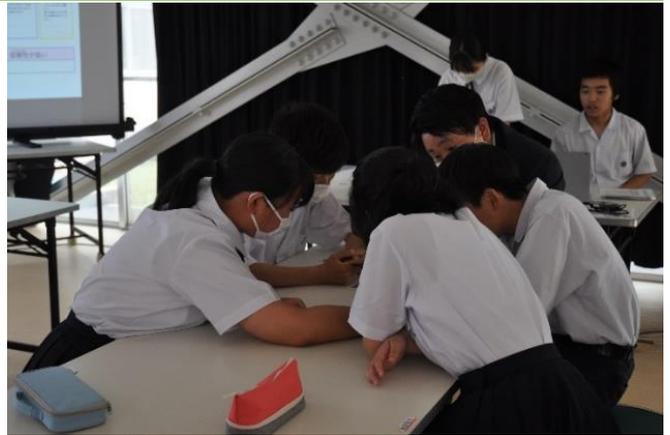
石川県

- ・生徒が主体となって防災に関する地域住民へのヒアリング等を実施。「ゴルフ交流会」等を通じて平時から地域との関わりを高め、防災意識を地域で高めている。活動が評価され「ぼうさい甲子園」で大賞を受賞。

1 取組の概要

中学生主体の地域防災向上活動

- ・石川県鳳珠郡能登町にある能登町立小木中学校は、生徒主体の防災訓練を行っている。コロナ以前は、中学生が主催する「老人会とのゴルフ交流会」や「地元のイカ料理体験」「保育園との交流」などの取組を通じて地域交流を実施。平時より地域住民と関わることで、中学生の企画活動に対して積極的な参加意欲を持ってもらえた。これにより、防災訓練の参加者数は年々増加。最大で800人の参加者を数えるまでに至った。平時からの活動により、地域全体の防災力の向上が実現し、中学生たちの地域への貢献意識も高まった。
- ・地域の小学校と合同で避難訓練を実施することもあり、避難訓練終了後には、中学生が小学生に「防災体操」を教えたり、「防災かるた」を楽しんだりなど、交流を行っている。



生徒会主催の防災集会

2 取組の特徴（取組の狙い、工夫した点、差別化した点等）

生徒主体の気づきを促進

- ・防災教育の一環で、近隣地域に住む高齢者にヒアリングを実施している。生徒たちが座学で学ぶ適切な防災活動や避難行動と「どこに逃げればいいのかわからない」「車で逃げるから大丈夫だろう」等、災害弱者とされる高齢者の意識に大きなズレがあることに生徒自ら気づく機会をつくっている。

地域を巻き込んだ具体的な防災活動

- ・地域住民からのヒアリング後、グループワークや教員への報告を通じて“地域防災”につながる活動を考え、具体的な活動にまで落とし込んでいった。この取組が生徒、教員、地域住民の防災意識を継続的に高める活動であると評価され、「ぼうさい甲子園」を6年連続で受賞した。



高齢者とグランドゴルフでの交流

3 取組の効果

2024年能登半島地震にて、中学生が避難所設営にかかわる

- ・日頃の防災意識の向上・啓発の活動により、2024年能登半島地震では、中学生が段ボールの仕切りの設置、物資の運搬、整理など、避難所設営に関わり、人員が少ない被災後の緊急対応を迅速に行うことができた。

小中学生の防災意識と地元愛の高まり

- ・災害弱者とされる高齢者へ生徒が直接ヒアリングすることで、適切な避難行動と高齢者の意識のギャップに気づき、被災した際の最悪の事態を想像し、防災意識が高まるといった生徒がいた。
- ・また、直接高齢者と話すことで、高齢者はもちろん自分より年少の子どもも含め全員で助かりたいという思いが強く

国土強靱化

なる。結果として、ハザードマップ作成等の地域活動を通じ、地元への思いが強まった生徒も見られる。

地域交流の活発化

- ・訓練を行うたびに、地域住民も自主的に避難訓練に参加するようになった。

4 取組への思い

- ・小木地区の未来を担う中学生が、防災に対する意識を持つことで、「もしもの時」自分の命を守ることができ、その上で、地区の方の命を守る行動ができるようになってほしい。



津波避難訓練「高瀬台地を駆け上ぐれ」

5 防災・減災以外の効果

- ・「中学生が頑張っているから私たちも訓練に参加する」などと、地区の高齢者が気軽に避難訓練への参加するようになり、防災意識（特に津波防災）を高めることができた。

6 現状の課題・今後の展開等

- ・「総合的な学習の時間」の授業時数内だけでの取組には限界があり、他の教科との連携などカリキュラムマネジメントを上手くしていけないといけない。
- ・学校だけで行うことも難しく、行政や地域との連携の部分で難しさを感じる時がある。
- ・地域の方々には認知していただいているが、地区を巻き込んださらなる防災意識の高揚のために、新たなアプローチの仕方を考えていく必要性も感じる。

7 周囲の声

- ・「地元が好きなので、少しでも被害が小さくおさまるように、地域内で声掛けをして、防災意識を高めていきたい。」（活動に参加した生徒）

担当者の声

- ・東日本大震災の時、生徒は被災者への義援金を集めていました。この熱き心と行動力を持った生徒、そして九十九湾の前に、何としても防災教育を始めねばと決意しました。
- ・誰かがやってくれるのを待つのではなく、自分たちにできることは何かを考え、できることからまずやってみようと、スピード感を持って取り組んできました。生徒も先生も、小木からは犠牲者を一人も出したくないとの強い思いで取り組んでいます。
- ・2024年の能登半島地震においても、生徒たちの手伝いのおかげで、避難所設営を迅速に行うことができました。生徒には、自らの命を自らで守り、共に助け合うという意識を持つことで、命の大切さを学び、古里小木を愛してほしい。そして何より、今を真剣に生きる姿勢と将来を生き抜く力を身につけてもらいたいと願っています。

問合せ先

能登町立小木中学校
電話番号：0768-74-0064
E-Mail：jhs-ogi-daihyo@noto.ed.jp
URL：https://cms1.ishikawa-c.ed.jp/ogixxj/

動画

—

サイト URL

